

共同墓碑 和合海 のご案内



仏法と出遇える
ご納骨を

西山別院には、ご門徒の皆様方の心安らぐお納骨場所として、本願寺第三代宗主覚如上人の御廟所近くに共同墓碑『和合海』がございます。
二〇一二(平成二十四)年、第二十四代即如門主のもと「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」の記念事業としての諸堂伽藍の整備に合わせて共同墓碑『和合海』を建立いたしました。



めまぐるしく変動する現代社会の中で、阿弥陀様の大慈悲につつまれ、お念仏を申して先代の方々のご苦勞に感謝し、心休まることのできる場所である『和合海』をご案内させていただきます。

合掌

〈利用規約 概略〉

- ①この共同墓碑は、本願寺西山別院が管理いたします。
- ②納骨者は、浄土真宗本願寺派の門信徒であることを原則といたします。
- ③合葬形式の納骨ですので、ご遺骨の返還はできません。
- ④申し込み冥加金は、ご納骨一体につき10万円のご志納をお願いいたします。
- ⑤法名板「俱会一処」にご法名を記帳いたします。

申し込みに関するご質問等は、本願寺西山別院(墓地係)電話075-392-7939までお問い合わせください。



本願寺西山別院報

久遠

-QUON-

第40号

〒615-8107
京都市西京区川島北裏町29番地
Tel:075-392-7939
Fax:075-394-4416
e-mail: nishiyamabetsuin@msa.biglobe.ne.jp



花の便り

長屋 善洋



春光にかがやく、「花の便り」が聞かれる頃となりました。

昨年から引き続きコロナ禍により、日常生活も「我慢」の一年が経過いたしました。年末から新年にかけて寒波により寒い日が続いておりましたが、三月に入り、例年なら「花見月」と呼ばれるほど、梅・桃・桜をはじめたくさんのお草花が咲き誇る季節となりました。その年の気候によって開花時期が変わりますが、西山別院境内の植物の様子を毎日観

ご縁を喜び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生

850

立教開宗

800

察して、日ごとに春を感じる暖かな日差しに、春らしい「春光」を感じると、本堂の前の紅梅のつぼみは例年より早く育ち開花しました。
西山幼稚園の卒園式が別院本堂で実施されました。

三月十七日に、境内にある西山幼稚園の卒園式が、コロナ禍の影響から実施出来るか心配しておりましたが、別院職員の協力を得て本堂の障子を開けて換気に努め、実施することが出来ました。
西山別院の桜の開花は、なんと、例年よりも早く卒園式の当日に開花しました。

春季彼岸会には桜が咲き始めました。こんな時は離れて暮らす家族や友人に久しぶりに手紙でも書いてみませんか。

昨年のお花見は、外出自粛の関係で皆様も見送られたことと思います。季節はちゃんと移り変わっております。感染防止に努めながら、今年は楽しく、桜の下を散策できると思いますね！ そのためにも少しずつ体を動か



すことも大切ですね。
新型コロナウイルスのため、会いたくても会えない、直接言葉をかけたくてもできない日常が続いており、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、楽しみにしていたふるさとへの帰省を控えようと思っっている方も多いはず。
手紙、はがき、一筆箋を書く場面も増えているようですが、自然豊かな四季が感じられる日本ならではの文化といえます。最近ではパソコンやスマートフォンで気軽にメッセージを送り合えますが、たまには手書きで近況を伝えるのもいいものですね。
自らの感染防止策を講じて、安心して生活できる日々が早く来るように願っています。



覚如上人御影 (西山別院本堂左余間)

覚祖会の お知らせ

四月二十二日(木)、二十三日(金)の二日間にわたり、西山別院開基である御命日法要「覚祖会」が修行されます。

西山別院は、本願寺教団の基礎を築かれた上人創設の「念仏の道場」であり、また、上人の御廟所として定められた地です。上人のご教化により、この末法にいよいよ輝くお念仏のみ教えが、私共のところへと届いております。

覚祖会は、上人のご遺徳を讃える大切な法要であります。コロナ禍における法要ですの
で、色々と制限はございますが、感染拡大防止に努めつつお勤めさせていただきます。

日時:

4月22日(木)

連夜法要/午後2時から【法要後 法話】
初夜法要/連夜法要に引き続き【勤行のみ】

4月23日(金)

晨朝法要/午前7時から
日中法要/午前10時から【法要後 法話】

場所:本願寺西山別院本堂

講師:本願寺派布教使 北浦 思朗 師
(滋賀教区 稲枝西組 光厳寺住職)

但し、状況を鑑みて一部形態を変更する場合がございます。



二月二十三日(火)は、西山別院開基覚如上人の祥月命日にあたり、本願寺御住職の御代香として西本願寺の式務部侍真が来院し、本堂並びに覚祖廟(覚如上人のお墓)を参拝されました。

【覚如上人】

親鸞聖人の曾孫で、西山御坊の基礎を築かれました。多くの教学研究や撰述があり、その才能を余すところなく発揮され、本願寺を中心とする教団の基礎をつくられました。

令和三年 西山別院開基「覚如上人」 祥月命日 御代香

別院
西山

境内の花々



本堂前の梅



書院の椿



ご法事について



感染対策の一環として西山別院本堂におけるご法事(月忌・祥月命日・年回法要など)を受付いたします。希望されます方は、別院寺務所までお申し出ください。
また、法要中は、次の対応をいたしますのでご協力をお願いいたします。

- ・法要中はマスクを着用していただいております。
- ・発熱(三十七・五℃以上)や咳など風邪症状のある方、体調不良の方は、誠に申し訳ありませんが、参列はご遠慮願います。
- ・間隔をとってお座りいただきます。
- ・状況に応じて、換気をしながらお勤めいたします。
- ・手指消毒液を用意いたしております。どうぞご使用ください。





浄土真宗本願寺派 (西本願寺)

新しい生活は 「和顔愛語」で
おだやかな顔と やさしい言葉

少しでも 安心して法事・法要を行っていただくために ガイドラインを作成いたしました。
ポスターのデータとメッセージの詳細とともに ホームページに掲載しています。



ほろほろと
空穂であれ
幸せであれ
釈尊



ポスターのデータと
メッセージの詳細は
ホームページに掲載しています。



浄土真宗本願寺派 (西本願寺)

「コロナ禍では、マスク等の医療物資の買い占め、罹患者やその家族、さらには医療関係者などへの差別的言動が問題となっています。この危機的状況の中において、私たちは少なからず「自分さえよければいい」という自己中心的な言動をとってしまっているのではないのでしょうか。しかしそのようなあり方が過ぎると、自分の安全のみを優先し、他人を傷つけ、互いに孤立し争い合う苦しい人生につながります。

そのような人間の悲しむべきあり方を見つめられたお釈迦さまは、私たちのいのちは、さまざまな縁(縁起)によって生かされているという真実を説かれました。そして、私を支えるすべてのものに対して、慈悲の心を持つべきことを示されたのです。

慈悲とは、出遇った人に安らかな心を与えることです。その心が、「生きとし生けるものは 安穏であれ 幸せであれ」「スッタニパータ」というお釈迦さまの言葉にあらわされています。仏さまの慈悲のお心は、私たちの「自分」という殻をやさしくひらき、すべてのいのちと響き合い、共に生きる豊かさを気づかせてくださいます。

仏さまのお心にあうことは、他人の痛みを自分の痛みと受けとめ、他人の喜びを自分の事として共に喜ぶことができるようになら育てられるということでもあります。親鸞聖人はお手紙のなかで、仏さまのみ教えを聞く者は「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」と思われるのがよいとおっしゃっています(『親鸞聖人御消息』、『浄土真宗聖典(註釈版第二版)』七八四頁取意)。

仏さまの温かなお心に触れたとき、そのお心は冷たく閉ざした私たちの心にそっと寄り添い、少しずつ私たちの身も心も和らかとなって、すべてのいのちの幸せを願う生き方に導かれていくのです。

「和顔愛語」とは、穏やかな表情と優しい言葉。とても尊いあり方ですが、これを本来の意味で実行するのはなかなか難しいことです。機嫌が悪いと無愛想になり、イライラすると他者を傷つける言葉さえ吐きかねません。調子のいいおべんちゃらや二枚舌も、不実な心が顔を出しているだけです。

しかし、その一方で、道ばたで困っている人を見かけた時、打算とかではなく、優しい言葉が掛けられることがあるのも事実です。それは、どこから来るのでしょうか。私の不実な心からは、ありえません。打算はもちろんのこと、「してあげた」という思いがおこり、お礼がないと腹立ちに変わること不実のありようです。そんな私たちに、阿彌陀さまのお慈悲が、はたらいてくださっているのです。阿彌陀さまの智慧の光に触れた者は、身も心も柔軟になります。阿彌陀さまのお慈悲に育てられ、私の不実な心の中に柔軟な心が芽生え、優しい言葉が発せられる身に育てられたのです。

くりすあきら君という少年の詩に、
ありがとうは、しあわせのあいさつです
(くりすあきら「ありがとうのがみ」)

とありました。「ありがとう」と言われたら幸せな気持ちになりますし、「ありがとう」が言えるのは、その人が幸せだからです。「和顔愛語」も、幸せの挨拶です。阿彌陀さまのお慈悲に出遇った幸せのおすそ分けを伝えてまいりましょう。



思い出の アルバム



「三年間を振り返って」 園児へ伝えたこと

卒園を迎える年長さんは、卒園式の練習後に、園長（輪番）から、幼稚園のお内仏のある大きなホールで、毎週月曜日に仏参で話してきた話を振り返りながら、園児は話を聞いてくれました。

園児は、いつでも、どこでも、誰にでも、みんな平等に見守ってくださる「ののさま」へ「ありがとう」と感謝の意味を込めて「ナモアミダブツ」「ナモアミダブツ」「ナモアミダブツ」と感謝・御礼のお念仏を称えてくれました。

卒園式では、西山幼稚園へ通い、三年間、特に年長さんとして最後の一年間は、コロナ禍による休園期間もあり、感染防止から、多くの行事も出来ませんでした。

私も、二〇一八（平成三〇）年四月一日に本願寺西山別院輪番に就任して、満三年が経過いたしました。



「思い出のアルバム」 「卒園する年長さんの園児は、 私と同期生です」

一四年前の「朝日小学生新聞」に、一年生の短い詩がある。へようちえん／にゆうえんしきで／ぼくがなき／そつえんしきで／ママがなく／秋元健太。の切り抜きを保存していただきましたので紹介しますと、短歌にも足りない三〇字で、自身の成長と親の愛を余すところがない卒園式で父母を泣かせてきたのが「思い出のアルバム」です。

「いつのことだか／おもいだしてごらん」顔中を口にして歌う子に苦勞を重ね、母親や先生方の涙腺は緩む。

NHKの「みんなのうた」で全国に広まった八十年代には、九割の卒園式で歌われたという東京都調布市の常楽院に歌碑がある。元住職で、幼稚園を開いていた本多鉄磨が作曲した縁です。作詞は、墨田区で保育園長をしていた増子とし、こちらはクリスマスチャンだった。珠玉の合作が生まれたのは一九五七年。おそらくは保育研究会の場で「異教」が出会い、立場を超えて子どもへの門出を祝いたいとの思いが結実した。四季の回想を連ねた詞は冬だけ二つある。

お寺や神社系の園のため、クリスマスに触れないものを用意したと聞く「半世紀前の歌づくりには、次代を担う子どもへの愛情がにじむ。」

いわば玄人の愛である。片や、親は育児の素人から危なげに発し、わが子については誰よりも通じたプロになっていく。卒園式や卒業式は両親の成長の節目でもあるう泣き笑いを重ねて迎える親子のひと区切り、そして新たな旅立ち。薄桃色の日ざしの中で、それぞれの心のアルバムに育ちの跡が刻まれる。

（出所：朝日新聞天声人語）

「思い出のアルバム」

増子とし作詞・本多鉄磨作曲

いつのことだか 思い出してごらん
あんなことこんなこと あったでしょう
うれしかったこと おもしろかったこと
いつになっても わすれない

春のことです 思い出してごらん
あんなことこんなこと あったでしょう
ぼかぼかおにわで なかよく遊んだ
きれいな花も 咲いていた

夏のことです 思い出してごらん
あんなことこんなこと あったでしょう
むぎわらぼうしで みんなはだかんぼ
おふねも見たよ 砂山も

秋のことです 思い出してごらん
あんなことこんなこと あったでしょう
どんぐり山の ハイキング ラララ
赤い葉っぱも とんでいた

冬のことです 思い出してごらん
あんなことこんなこと あったでしょう
寒い雪の日に あったかい部屋で
たのしいはなし ききました

一年じゅうを 思い出してごらん
あんなことこんなこと あったでしょう
桃のお花も きれいに咲いて
もうすぐみんなは 一年生

泣いてよし、笑ってよしの集いによって、この国の春はほどよく厳かな、晴れの季節になる。



西山幼稚園 卒園式



三月十七日（水）新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今年度も西山別院本堂にて卒園式が挙行されました。

晴天に恵まれ、境内の桜も開花する中、卒園児の皆さんは立派な姿で卒園式に臨むことができました。

卒園式では、園児代表が献花・献灯・献香を行い、その後、長屋園長から一人ひとり修了証書を受け取りました。

小学校に行っても、頑張ってください！

